

本会理事春日昭夫氏が *fib* president に就任

下村 匠*

本会理事である春日昭夫氏（三井住友建設）が国際学会 *fib*（Fédération internationale du béton：国際構造コンクリート連合）の第12代会長（*president*）に就任することが、2020年10月11日に開催された同学会の総会（General Assembly）において正式に決定した。会長の任期は2021年1月から2年間である。同学会における日本人の会長就任ははじめてのことである。

春日氏は、日本の民間会社に所属するプレストレストコンクリート橋梁技術者として、これまで数々の橋梁の設計、施工に携わり、その業績は国内外において高い評価を受けている。*fib* においても春日氏が主体的に携わった世界初のエクストラドーズド橋の小田原ブルーウェイ橋（1998年）、自碇式PC吊床版橋の青雲橋（2006年）、バタフライウェブ橋の田久保川橋（2018年）が表彰されている。これらの先進的な優れた橋を実現する技術力と実行力を有した国際的なエンジニアとして、春日氏は *fib* のなかでも高く評価されており、2015年からは最高幹部会（*presidium*）の委員を務め、2019年からは副会長に就いていた。会長就任は自然な流れであった。

fib については、プレストレストコンクリート工学会のベテラン会員諸氏には周知のことであると承知しているが、若い会員や会員以外の方のために簡単に紹介したい。*fib* は前身である CEB（Euro-International Committee for Concrete：ヨーロッパコンクリート委員会、1953年設立）と FIP（International Federation for Pre-stressing：プレストレストコンクリート国際連合、1952年設立）が1998年に合併して設立された。CEB は、土木学会コンクリート標準示方書をはじめとするわが国の設計基準の内容にも大きな影響を与えてきたコンクリート構造の設計基準である CEB Model Code を累々と作成してきたことでよく知られている。CEB Model Code は *fib* Model Code として受け継がれ、現在も改訂が続けられている。*fib* は現在では、ヨーロッパにかぎらず世界に門戸を広げた大きな学会となっている。個人会員と各国の法人会員（National Group Member）より構成される。本部事務局はスイス・ローザンヌの EPFL（スイス連邦工科大学）内に置かれている。毎年開催場所を変えて行われるシンポジウムと4年に一

度のコンgresには、日本からの参加者も多い。

さて、プレストレストコンクリート工学会はプレストレストコンクリート技術協会の頃から、*fib* の前身のひとつである FIP の日本の National Group Member であった。日本の諸先輩方は古くから CEB-FIP/*fib* に貢献し、友好関係を育ててこられた。その成果として、1993年に FIP シンポジウムが京都で、2002年に *fib* コンgresが大阪で開催されたことは記憶にとどめたい。現在は、プレストレストコンクリート工学会（JPCI）と日本コンクリート工学会（JCI）がともに *fib* の日本の National Group Member であり、総会での投票権を有している。このように、*fib* におけるわが国の存在は決して小さなものではなかった。しかし、これまで *presidium* の委員に就いた人は何人かいたが、会長を輩出したことはなかった。この度の春日氏の会長就任は、長年の悲願であったといえる。

ところで、2020年はコロナ禍で国内外の学会活動も大きな影響を受けた。中国の上海で行われる予定であった *fib* シンポジウムは、延期の末にオンライン開催となった。Model Code の改訂委員会をはじめとして活発に行われてきた *fib* の委員会の会議も、オンライン形式に移行された。春日氏が会長に選任された General Assembly もオンライン会議であり、zoom のメッセージ機能で世界各国より祝意が寄せられていたことが印象的であった。このような世界的な状況は当面続く可能性がある。試練ではあるが、この状況に対応した学会運営が求められるであろう。はるばる遠くから集まり時空間をリアルに共有する機会は減るが、オンラインにより世界中の人が同じ条件で手軽にコミュニケーションできるということは、考え方によっては今までにないメリットもあるのではないだろうか。

このような時代に会長に就任される春日氏におかれては、この状況に柔軟にかつ積極的に対応しつつ、*fib* の運営と発展に尽くされ、以て世界のインフラ整備に貢献されることを期待する。*fib* の公式法人会員である JPCI と JCI はもとより、国内の関連技術者研究者はできるかぎりの支援をしたい。

【2020年11月9日受付】

* Takumi SHIMOMURA：本工学会常務理事
長岡技術科学大学 環境社会基盤工学専攻 教授